

八林秀一教授追悼号刊行に寄せて

八林秀一経済学部教授は2012年11月5日に66歳で急逝されました。八林先生が本学に入職されたのは1978年でしたが、ここでそれ以前のご経歴をたどってみたいと思います。ご尊父がお仕事の関係であちこちに転勤されたと八林先生から伺ったことがあります。そのために、本籍地である広島県を経て、幼少のころは姫路城の近くで過ごされました。あるいはこのころに、他人を何かで楽しませたい、と同時にそのことによって自分自身をも楽しませるといふ、良き関西人の誇るべき気質が人格形成の土台の重要な一部分として、知らず知らずのうちに身についたのかもしれない。その後、東京都大田区立の中学校を卒業され、東京都立日比谷高等学校、東京大学教養学部文科Ⅱ類を経て、同大学経済学部、さらに同大学大学院経済学研究科へと進学されました。そして、同研究科博士課程の期間中には、ベルリン自由大学への留学もされています。

さて、八林先生の入職時のお写真を拝見しますと、そこには眉目秀麗な若者の姿が写っています。「天は二物を与えず」という言葉が常に当てはまるものではないことを大いに感じさせられます。

本学経済学部で八林先生は、経済学科の「歴史と発展」コースに所属され、その中の経済史グループの一員でした。担当された講義科目は、「歴史と経済」、「現代西洋経済史」、そして「国際事情（ドイツ語）」などでした。

経済史は特定の時代を運動と変化において捉え、その中でも社会の基礎となっている経済の動きに注目します。そこでは、時期区分の方法と歴史的特徴の把握が重要となります。研究史上でも、封建制から資本主義への移行や産業資本主義から独占資本主義への移行を始めとした、移行期の特徴に多くの関心が寄せられ、論争が行われてきました。同じく、「現代」とは何か、また「現代」の起点をいつからと捉えるのかも興味を呼ぶところです。八林先生の「現代西洋経済史」の講義は、戦間期、すなわち第一次世界大戦と第二次世界大戦のあいだの経済的变化に注目することによって、「現代」経済の歴史的位置づけを行おうとするものでした。

次に、学内の公務についてですが、八林先生の携わられた公務の中で最も大きな功績は、入試委員長の時に決断された入試制度の抜本的な改革でした。この改革の大きな意義については、多くの人によってなおも語り継がれています。

最後に、高校時代からのサッカーです。東大時代のサッカーの思い出は、藪内俊和氏による追悼文をご覧ください。本学では、長年、サッカー部の部長として尽力されました。そしてついに、2011年度の全日本大学選手権で初出場・初優勝という快挙を成し遂げられました。本学のサッカー部での学生とのやりとりについては、『ニュース専修』2012年12月号に掲載されている、サッカー部マネージャー・桜井暁大君の追悼文をご覧ください。そこでは、八林先生が関東大学サッカー連盟の評議員会議長をされていたことも紹介されています。

以上、語り尽くせない想いがまだまだ残るばかりですが、末尾に葬儀の折にご霊前に捧げた弔辞を掲げさせていただきます。なお、この弔辞の中では、八林先生とのふだんの親交を思い起こして呼びかける形式での呼称として「八林秀一さん」とさせていただきます。どうかご容赦ください。

2013年9月11日

弔 辞

八林秀一さん、このような悲しいお別れが来るとはまったく思っておりませんでした。私と出会うと、いつも少し笑いを含みながら、半分からかうような調子で気さくに語りかけてこられたことが、つい昨日のことのようです。幼少のころは兵庫県姫路城の近くで過ごされたあなたは、私が大阪出身ということで親しみを感じられたのかもしれませんが。私と話されるときは、一種独特なアクセントの関西弁が混じった言葉で話しかけてこられました。

教授会で発言されるときも、元気滲刺で、良く通る大きな声が印象的で、マイクなどは無用の長物でした。それに加えて、スポーツマンらしく、見るからに頑健な体つきをされていました。そのようなあなたが、まさか病気でこのようなことになるとは、本当に残念でたまりません。

八林秀一さん、あなたが専修大学に入職されたのは、1978年でした。以来、長きにわたって、「現代西洋経済史」や「歴史と経済」などを教えてこられました。多くの学生たちに、「歴史的なものの見方」ができることの大切さを伝えるとともに、その視点か

ら「現代」について考えるということを強調してられました。

ご専門は、近現代ドイツ社会経済史、なかでもドイツ手工業史であり、専修大学社会科学研究所の月報にも、ドイツの「職業教育と資格」などの論考を寄せられています。

学内の公務では、主なものだけでも、就職指導委員会委員、体育部委員会委員、国際交流センター運営委員会委員などがありますが、特に入学試験委員会委員長を2000年から3期6年勤められたことが最も重要です。このときに、入試制度の抜本的な整備が行われたことは大きな功績として現在も残っています。

そして、高校時代からのサッカーです。長年、本学サッカー部の部長として惜しみなく尽力され、ついに昨年は関東大学リーグ一部リーグ初優勝、さらに全日本大学選手権で初出場・初優勝という快挙を成し遂げられました。今年も総理大臣杯準優勝を勝ち取り、これらによって川崎市スポーツ賞も得ています。

八林秀一さん、あなたはこのような学問とスポーツの両道での活躍を一身に兼ね備えることができました。「秀一」というお名前の通り、まさに「秀でた」存在でした。そのことによって、専修大学の発展にも大きく貢献されました。あなたを誇りに思うとともに、心よりお礼を申し上げます。

八林秀一さん、長い間、本当にありがとうございました。安らかにお眠りください。

2012年11月11日

専修大学経済学部長 福島 利夫